

## CONTENTS 「主な内容」

- なくそう！コロナ差別 ..... 1P
- 「片江校区人権宣言」の精神を地域へ広げたい ..... 2P
- ココロキャンパス・人権啓発推進指導員のコーナー ..... 3P
- ココロセミナー、おすすめ作品の紹介 ..... 4P



なくそう！  
コロナ差別

冷静な行動、助け合い、  
支え合いの力で  
不当な差別・偏見・いじめを  
なくしましょう。



「ココロン」  
(福岡市人権啓発センターマスコットキャラクター)

 **福岡市**  
福岡市人権啓発センター



片江校区人権尊重推進協議会は、平成6（1994）年に設立され、人権講演会、フィールドワーク、町別人権研修会、人権カレンダーの作成、広報紙「こもれび」の発行など活発に人権啓発に取り組んできました。平成27年には、人尊協設立20周年を記念して「片江校区人権宣言」を制定しました。「●子どもから高齢者まで交流を図り地域のつながりを大切にすること●相手の立場に立って考え、思いやりの心もち、助け合い支え合うこと●人が人として尊重されるため、身の回りのあらゆる差別をなくすこと」が宣言され、現在も啓発活動の指針として大切にされています。

昨年度はコロナ感染症の影響を受け、例年と同じようには活動できませんでした。しかし、コロナだから仕方ないとあきらめるのではなく、現状でやれることは何か、別の啓発方法はないかと知恵を絞りました。秋からは人数制限をしたうえで感染予防対策をとり、研修会を実施しました。また、「片江校区人権宣言」を印刷したクリアファイルとコロナ差別をなくすための「シトラスリボン運動」を説明したポケットティッシュを作成したり、人権標語を入れた看板を設置したりと新たな啓発活動を行いました。人尊協の活動の指針である

「片江校区人権宣言」について、住民の方に改めて知らせることができました。

片江人尊協の根幹をなす活動として、町別人権研修会に力を入れて取り組んできました。14町内全てで実施することは確かに大変ですが、「なかなか研修する機会がないのでよい機会だった。」「またやって欲しい。」という感想をもらうことが多く、今後も大切に続けていきたいと思っています。



感染予防しながらカレンダー作成



毎年作成している人権カレンダーは、使いやすい大きさということもあり、地域の皆様に大変好評です。昨年度は、片江小学校6年生から募集した標語と絵手紙の2つの公民館サークルの作品とを組み合わせ、片江校区ならではの手作りカレンダーを作成しました。片江小学校と片江中学校、校区住民、城南区人尊協関係者に配付することで、多くの家庭でカレンダーを通しての人権啓発が行われています。



地下鉄七隈駅での取材

年2回発行している「こもれび」では、事業報告だけでなく、自分たちで取材した記事も載せています。昨年度は、ユニバーサルデザインについて、地下鉄七隈線の七隈駅を取材しました。白杖や車いすの体験をしながら説明を受けました。日頃なかなか気づきませんが、券売機、改札口、ホーム、トイレなどに年齢や性別、国籍、障がいの有無に関わらず全ての人々が快適に利用できるような配慮がされていることを知ることができました。取材は大変ですが、知らないことを知っていく楽しさを感じました。

人尊協の活動を通して出会った外国籍の方、障がい者の方、高齢者の支援者の方から様々なことを学びました。外国人だから…、障がい者だから…などと属性で人を見ることは、思い込みや偏見につながりません。「知らないことを知る」「知らない世界を知る」ことの大切さと互いに理解し尊重することで人生が豊かになることをこれからも伝えていきたいです。



## 令和3年度 大学連携事業「ココロンキャンパス」 福岡市人権啓発センター&九州大学教育学部 公開講座

### 「日本における外国人・民族的マイノリティの子ども～家族支援の現場から～」

外国につながる子どもやその親たちは、日本でどのような生活を送っているのでしょうか?大阪・ミナミの「Minami こども教室」は、外国ルーツの子どもが学ぶことのできる学習支援教室です。子どもたちにとことん寄り添う一方で、家庭の異変を察知するセーフティネットとしての役割も果たしています。本教室を運営する金光敏さんをゲストにお迎えし、家族支援の現場についてお話を伺います。外国人家族が直面している課題や日本社会の構造的問題について、地域での人権を軸にした支援活動の実践から学び考えてみませんか?

**開催日時** 令和3年8月4日(水)14:50～16:20

**開催方法** オンライン配信(限定公開)及びサテライト会場(福岡市人権啓発センター)での放映

**講師** 特別非営利活動法人コリア NGO センター事務局長 金光敏(キム クアンミン)さん  
下関市立大学都市みらい創造戦略機構特任教員 石川 朝子(いしかわ ともこ)さん  
人間環境学研究院教育学部門・教授(教育史) 野々村 淑子(ののむら としこ)さん

**定員** 約100名(内サテライト会場30名)

**申込方法** 事前申込制(詳細は福岡市市政だより7月15日号及びセンターホームページに掲載)

〈金光敏さんのプロフィール〉

1971年大阪市生まれ。在日コリアン3世。大阪市立大学大学院を修了。

2004年に特別非営利活動法人コリアNGOセンターを発足し、以来、理事兼事務局長を務める。

また、Minamiこども教室実行委員長、学校法人白頭学院理事、大学非常勤講師としても活躍中。

主な著書：『大阪ミナミの子どもたち～歓楽街に暮らす親と子を支える夜間教室の日々』(彩流社) 金光敏さん



## 人権啓発推進指導員のコーナー

### 寅さんが詠んだら…

映画館で初めて「男はつらいよ」を観たときの、寅さんのマドンナ役は木の実ナナだった。先日、新聞で目にした短歌が若い頃の記憶を起こしてくれた。プロの歌人に失礼だが、「座布団10枚」と唸ったその一首は自己責任、非正規雇用、生産性 寅さんだったら何て言うかな…俵万智

災害、倒産、リストラ、離婚…コロナ禍。いつ自分が不遇な目に遭うか分からない時代に、「迷惑被りたくないから(私に)かかわらないで」と言われているような「自己責任」。いくら努力しても「正規」として認められない格差社会。もたもたしたら「役立たず」と烙印を押されてしまいそうな効率・合理主義。上の句は弱者や敗者に見向きもせず、多様性を認めないような冷たさを放っており、「人権短歌」として解釈した次第。

まあ、寅さん自身がフーテン暮らしでトラブルの種をまいては姿をくramsのだから、非生産的で無責任ではある。かなしいかな、今の時代、そんな気ままな生き方を許さない人が増えてしまった。寅さんを責める社会は、生きづらい。

で、もし、印刷会社を経営する隣人のタコ社長が「上の句」を発したら、こんな一首になるのかな。

自己責任、非正規雇用、生産性 それを言っちゃあ おしまいよタコ…車寅次郎

(蔵本)

### 言わんでいいのに

テレビの旅番組で、ロケ地で地元の魚を調理する若い女性たちの様子が流れた。進行役のタレントが「あの娘たちは、将来、きっといいお母さんになるよね」とコメントすると、一緒にテレビを見ていた妻が「そんなこと、言わんでいいのに」と一言。

ホークス勝利の次の日、朝の情報番組で「女房役・甲斐、大活躍～！」と担当タレントが叫んでいた。続けて女性アナウンサーが「勝利を届けたのは、鷹の女房役！」と追い打ちをかけた。私は「何度も、言わんでいいのに」と思った。

言うまでもなく「いいお母さんになる」や「女房役」という表現は、男性中心の価値観から発せられる表現である。料理を作る女性は良き母になるのか?ピッチャーを引き立たせる脇役としてキャッチャーを価値付け、それを「夫の補佐が妻の役目」に準えることが適切なのか?そんなことを考えてしまう。

ただ「言わなければそれでいい」と思っているのではない。どうして言うべきでないのか、なぜこの言葉を使わないのか、そこはきちんと時間をとって「言ってほしい」とさえ思っている。

東京オリパラ組織委員会の前会長による女性蔑視発言が世界中から問題視されてまだ間もない。性差別にまつわる表現に、私たちはもっと敏感になるべきではないだろうか。

(大戸)







# ココロセミナー

## ～ 考えてみませんか？ あなたの人権 わたしの人権 ～

福岡市人権啓発センターでは、人権問題を身近に考えていただくためのセミナーを年6回開催しています。今回、前期3回（7、8、9月）の受講者を募集します。あなたの身の回りにある人権について学んでみませんか？

回	月日	時間	テーマと演題	講師
第1回	7月17日 (土)	14:00 ～ 16:00	<b>同和問題</b> 「いのちと仕事」 ～いのちをいただく～	元熊本市 食肉解体作業員 坂本 義喜 さん 
第2回	8月21日 (土)	14:00 ～ 16:00	<b>感染症、ハンセン病</b> 「今こそ問われる“ハンセン病”の教訓」 ～コロナ禍で考える差別～	三重テレビ放送 報道制作局長 小川 秀幸 さん 
第3回	9月25日 (土)	14:00 ～ 16:00	<b>障がい者</b> 「コロナ禍における障がい児・者」 ～いま私たちができること～	《コーディネーター》 NPO法人福岡市障害者関係団体協議会 理事長 清水 邦之 さん

- 会場 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 あいれふ10階「講堂」
- 定員等 各回60人 事前申込要（定員を超えた場合は抽選）受講料無料
- 申込方法 ホームページ、市政だより7月1日号をご覧ください。

## ココロセンターライブラリー おすすめ作品！

人権問題に関する書籍、まんが、絵本、DVDが続々入荷！  
貸出を行っています。ぜひ、ご利用ください。

### まんが「義男の空」(全12巻)

「治る見込みがない」と見放された子どもを救い続ける全国で数少ない「小児専門」脳神経外科医と固い絆で結ばれたたくさんの家族の感動物語。作者は生後間もない息子の命を奇跡的に救ってもらった父。

この物語には、「どんな人にだって突破口があるんだ。普通人間として生きていくことが本来のあり方なんだ」という思いが描かれています。価値観やものの見方が大きく変わるきっかけになるかもしれません。

著者：エアードライブ 発行所：ダイブックス



### DVD「君が、いるから」(33分)

テーマは、「子ども・若者の人権」。予備校生のかなでは、母親から制限のある生活を強いられその呪縛から逃れられないでいた。コンビニのアルバイトをきっかけに様々な人と出会い、新たな価値観に気づいていく。子どもや若者が社会的に成長し自立していくために、人と人とが関わり支え合いながら希望の種をまいていく、そんな社会の実現を目指す兵庫県人権啓発ドラマです。

企画：兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会  
制作：東映株式会社 ※字幕・副音声付き



「ココロセンターだより」No.84 発行：令和3年6月 福岡市人権啓発センター  
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階 TEL092(717)1237 FAX092(724)5162  
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp

ココロセンター 福岡



TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)